



元 気 通 信

～かけ橋～

ブダペスト日本人学校
学校だより 第2号
令和2(2020)年5月15日
校長 松丸 晴美

「教室から消えた子供たち」

青葉若葉が美しい季節になりました。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う学校の休校措置により、全世界の72%、13億人もの子供達が登校できていないとユネスコは発表しています。いつもなら5月の連休が明けると、子供達が運動会の練習に取り組む元気のよい声が爽やかな風に乗って聞こえてくるのですが、今年はまるでゴースト・スクールになってしまったかのように、学校から子供達の姿が消え、学校は物音一つしない不気味な建物となっています。

本来ならば学校に登校し、仲間と一緒に切磋琢磨しながら学習や様々な教育活動を通して、心や体を鍛え、人格を磨いていくはずの子供たちから貴重な時間が奪われていることに強い憤りを覚えます。

私が住まう東京の公立小中学校では、何と2か月半も授業がなく、課題やプリントによる自宅学習が続いています。しかし本校では、先生方の懸命な努力によって、4月21日からインターネットを使った遠隔授業（オンライン授業）を始めました。これには、保護者の方のご理解と多大なご協力があったから実現できたことです。

文部科学省の調査によると、全国の公立小中高等学校がオンラインによる双方向授業を実施している自治体は5%に留まっている実態があります。

オンライン授業は、対面指導に比べれば、子供たちの学びの様子がつかみにくい、実物を見たり触れたりできない、人数が多くなると子供同士の意見交換や学び合いが

しにくいなどの課題はあります。しかし、一人で黙々と課題やプリント学習を進めるのは容易なことではありません。「紙の学習」は大人でも強固な意志がなければ継続しがたいものです。

オンライン授業の方法は様々ですが、本校では、テレビ会議システム「Zoom」を使用し、授業や朝の会を行うとともに、「Google classroom」を用いて、課題や宿題の提出・返却、諸連絡などを行うなど、様々な形で子供達とコミュニケーションを図りながら進めていくことを大切にしています。始めて4週間ほど過ぎましたが、当初想定していたトラブルは少なく、子供たちの生活リズムをつくることや自学自習の力を伸ばすことに役立っているのではないかと感じています。

このシステムの利用が初めての私は、何とか授業開始までには最低のスキルを会得しなければ・・・と講師の先生から多くのサポートを受けながら一日中パソコンにしがみついた日が続きました。今は、オンライン授業と自宅学習の課題をどのように組み合わせれば子供たちが効果的に学べるか、黒板や実験・観察ができない環境の中で、どうすれば理解を深めることができるのか・・・と試行錯誤しながら理科の授業づくりを進めています。

長期にわたる休校は、「教師が教え、子供が習う」対面授業から「教師が支援し、子供が学ぶ」遠隔授業へと、教育のパラダイム（考え方）を転換させる契機になりつつあります。

(まだ日本で待機しています)